



波止浜船渠(株)2号ドック (今治市)

### 建築物、土木構造物、産業施設の相違

- 建築物 : 柱(構造材)と内外装材  
用・強・美が要求・追求される
- 土木構造物: 柱と梁(構造材)  
用・強・(美)
- 産業施設 : 装置、機械  
用・強(期限付き)

一般論は抜きにしてなるべく愛媛県に即した形で考えたいと思うのですが、昨日の打ち合わせの席で話したとき、次のスライドを出すのをやめようと思ったのですが、やはりいっておきたいことのひとつだったのであえて入れました。近代化遺産を大きく分けると、法律上は、土木、産業、交通の3分野なのですが、これに従来の建築をふくめると、遺産は大きく、建築、土木、産業の3つに分類できます(交通を土木に含める)。この3つの遺産の構造物の違いはどういうところにあるのかを整理したのが、このスライドです。「建築」というのは、いわゆる用・強・美、この3本柱が非常に大切です。建築物は、素人の方が見ても美しいとか親しみやすいとか、分かりやすいものです。

ところが、土木となるとどうか。「土木」はこの用・強・美のうち、美はなくなっている。特に戦前と戦後の一時期までそういう傾向がありました。「用」は機能で、「強」は構造です。橋でいうと「用」というのは橋を渡ること、車を通すこと。「強」は、構造的に耐えられるか否かということです。

産業施設はこの3つをどうとらえるのかというと、「用」さえあればいいのです。もちろん構造も重要ですが、例えば鉱山を例にとると、鉱石の埋蔵量が10年しかない場合、構造物や採鉱施設は10年もてばいいのです。11年目に構造物などが使いものにならなくなれば、費用便益としては最善なものをつくったことになると、

ある社長さんは語っていました。産業施設は永久をめざさず、仮設構造物でいいわけです。永久をめざさず、埋蔵量に応じた形で30年なら30年間もつような構造物を設計できれば、会社としては一番いいわけです。

このように建築と土木構造物、産業施設は、構造物をつくるときの狙いや考え方が違うのです。ですから保存方法なども本当はこういったことを十分考慮しながらやっていくのが筋ではないかと思います。もちろん現実はこのような形でスパッと整理はできないのですが、こういったことを基本としながら考えていくと、それぞれ対処の違いが分かるのではないかと思います。

### V. 地域の活性化へむけて

今回の普及版ですが、新たな工夫ということで、案内書的な形で道路のネットワーク別に遺産を整理してくれました。これも地域の活性化のひとつ工夫だと思います。

地域の活性化で最近思ったことは、「遺産力」です。最近の流行で「○○力」というのがはやっていますが、それをもじって「遺産力」です。歴史的な町並みをたずね歩いている老人はボケないといわれるんですね。なつかしさを覚える町並みを歩くと、むかしのことが思い出されて、脳が活性化されるからでしょうか。町並みだけではなくて、古い構造物もそういったことがいえるのではないかと思います。例えば、遺産めぐりのルートをつくって、地元の老人にガイドしてもらうことで、訪問した人もガイドする人も、健康増進とボケ防止になるのではないかと思います。日本が高齢化社会に突入して、私もいつボケるか心配なんです。昔の場所や記憶をたどることでボケ防止に繋がるのではないかと思います。

普及版は道路のネットワーク別に遺産めぐりをしているのですが、実はものだけではなく人のネットワークも非常に大切です。遺産めぐりのネットワークも普及版は自動車を想定していますが、街中には自転車や徒歩用のネットワーク・ルートもあります。そこに入れてほしいのは、博物館とか食べ物屋、あと視点場などを入れていただくと、便利なガイドブックになります。

「もの」というのは一度見るとそれでオーライで、二度行く人はなかなかいません。地元の人は別かもしれませんが。私は世界遺産の土木遺産や産業遺産めぐりをしているのですが、一回行っただけでその国の全部を見て回ることはもちろんできないのですが、一度行ったところを二度行くことはあまりありません。なぜかという、